

授 業 科 目 名	心理学理論と 心理的支援(講義)	担 当 教 員	大井 彰之	開 講 期 ・ 年 次	前 期	必 修 科 目	単 位	2
					1 年次			
<p>授業目標</p> <p>現在、心理学は、人間の前身のシステムについて広範な研究が行われている。本講義においては、現在までの心理学に関する様々な基礎知識を整理し、国家試験に出題例が多い重要な概念や理論について理解することと、将来的にソーシャルワークの現場で必要とされる知識や技能についても把握し、現代社会の中で問題となっている多くの出来事についても関心を持ち、それらの問題の参照となるような有機的な知識を身につけるような学習を展開する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心理学とは 2 人間の心理学的理解（性格） 3 人間の心理学的理解（感情） 4 人間の心理学的理解（欲求・動機づけと行動） 5 人間の心理学的理解（感覚・知覚・認知） 6 人間の心理学的理解（学習・記憶） 7 人間の心理学的理解（知能・創造性・思考） 8 人間環境と集団 9 対人交流とコミュニケーション 10 発達概念 11 発達の障害 12 適応とストレス 13 見立て・面接・心理療法 14 心理査定・診断 15 心と脳 								
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。						
教 科 書		新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援 [第3版] (中央法規出版)						
参 考 書								
準備学習内容		教科書を読み、事前に予習しておくこと。						

授 業 科 目 名	社会理論と 社会システム (講義)	担 当 教 員	藤原 真名夫	開講期 ・年次	前 期 1 年次	選 択 科 目	単 位	2																
授業目標 われわれは社会の中で生活している。社会は日常的に私たちのすぐ横にある。この当たり前事実。しかし、この身近なはずの社会は改めて眺めてみると思いのほか不思議に充ち満ちています。これらの謎を探る先人達の努力、そのヒントや考察のための道具について考えていきたいと思えます。社会における様々な事象を、「当たり前」、「常識」で流してしまうのではなく、ふと立ち止まって眺め、考えてみることを「社会学」の第1歩としましょう。社会的な福祉領域における社会学の意義とは、状況や問題といった目の前に現れてくる「ありのままの現実」をかなう限りそのままに捉え、さらに、その「現実」の生じてくる原因やプロセスを探っていくことにあるのではないのでしょうか。古今の社会学者たちは、こうした「現実」の裏側を探るツールを様々に考察・考案してきたわけですが、残念ながら完全なるツールは見つかってはおりません。みなさんが先人達の知恵をふまえ、今後の生活・職場の中でそれを発展展開させる実践としての社会学を「おこなって」いかれる事を期待いたします。																								
授業内容の計画 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 イン트로ダクション</td> <td style="width: 50%;">9 生活の理解 1</td> </tr> <tr> <td>2 社会学史 1</td> <td>10 生活の理解 2</td> </tr> <tr> <td>3 社会学史 2</td> <td>11 人と社会の関係 1</td> </tr> <tr> <td>4 社会学史 3</td> <td>12 人と社会の関係 2</td> </tr> <tr> <td>5 社会変動と人口 1</td> <td>13 社会問題の理解 1</td> </tr> <tr> <td>6 社会変動と人口 2</td> <td>14 社会問題の理解</td> </tr> <tr> <td>7 現代社会の理解 1</td> <td>15 社会学総論</td> </tr> <tr> <td>8 現代社会の理解 2</td> <td></td> </tr> </table>									1 イン트로ダクション	9 生活の理解 1	2 社会学史 1	10 生活の理解 2	3 社会学史 2	11 人と社会の関係 1	4 社会学史 3	12 人と社会の関係 2	5 社会変動と人口 1	13 社会問題の理解 1	6 社会変動と人口 2	14 社会問題の理解	7 現代社会の理解 1	15 社会学総論	8 現代社会の理解 2	
1 イン트로ダクション	9 生活の理解 1																							
2 社会学史 1	10 生活の理解 2																							
3 社会学史 2	11 人と社会の関係 1																							
4 社会学史 3	12 人と社会の関係 2																							
5 社会変動と人口 1	13 社会問題の理解 1																							
6 社会変動と人口 2	14 社会問題の理解																							
7 現代社会の理解 1	15 社会学総論																							
8 現代社会の理解 2																								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。																							
教 科 書	新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム[第3版] (中央法規出版)																							
参 考 書																								
準備学習内容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。																							

授 業 科 目 名	人体の構造と 機能及び疾病 (講義)	担 当 教 員	元根 正晴	開 講 期 ・ 年 次	前 期 1 年 次	必 修 科 目	単 位	2
授業目標 <p>人体の構造と機能及び疾病は、社会福祉士としての業務に必要な医学・医療の知識を習得する科目です。現在の日本は、世界でも類を見ない少子・高齢化が進行中であり、すでに人口減少が始まっております。人口の自然増加が見込めない状態でありながら、高齢化社会に特有の慢性疾患、精神・神経疾患が多発する社会であります。</p> <p>また疾患が生活習慣病にシフトしてきている現状に鑑み、予防医学が重視されつつあります。治癒後の社会復帰を促進するリハビリテーション医学やQOL改善の観点から、終末期医療も重視されてきています。</p> <p>社会福祉士の提供する援助は、生活支援であります。医師などの提供する医療行為と密接に関連しつつ支援を行う必要があります。その意味でチーム医療の一環として、医学・医療の知識を持ち、医療職と同等の医療的価値観を持つことが重要です。その意味で、社会福祉士の業務遂行にとって必要不可欠な要素としての医学一般科目修得と考えて学習して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2 国際生活機能分類(I C F)の基本的考え方と概要について理解する。 3 リハビリテーションの概要について理解する。 								
授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達 2 心身機能と身体構造の概要 3 国際生活機能分類(I C F)の国際的考え方と概要 4 健康の捉え方 5 疾病と障害の概要 6 リハビリテーションの概要 <p>人体の構造と機能及び疾病は、専門用語などなじみのない用語も多く、最初は苦勞するかもしれませんが、段々慣れてきます。テキストを繰り返し読むことが重要です。</p>								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病[第3版] (中央法規出版)							
参 考 書	改訂 介護職・福祉職のための医学用語辞典 (中央法規出版)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	英 語 (演習)	担 当 教 員	高瀬 少輔 生野 愛奈	開 講 期 ・ 年 次	前 期	必 修 科 目	単 位	2
					1 年次			
授業目標								
この講座では、テキストに登場する表現を自分が理解するところから一步踏み込んで、教材を使って日常的には英語に接する環境に暮らしていない子どもたちに以下に違和感なく英語に親しみを持つように指導するかを見出していきたいと思っている。英語自体の基礎的な指導は行うが、展開の仕方は担当者と受講者の共同作業の中からより良いものを見つけ出していきたい。								
授業内容の計画								
1 ガイダンス 2 イントロダクション								
3 場所・時・色・数・動作、その他基本になる英語の基礎をもう一度確認しておこう								
4 動物を素材にして数に関する表現を復習								
5 身体的特徴を素材に形態をあらわす表現								
6 相手との情報交換の手段								
7 同一と差異を考える(1)								
8 同一と差異を考える(2)								
9 色に関する情報を交換しよう、								
10 日常用具を表現するアイデア								
11 衣服に関する表現を使った英語ゲーム								
12 相手や第三者の場所や動作を尋ねる表現								
13 プレゼンテーション(1)、 14 プレゼンテーション(2)、								
15 前半まとめ								
16 基礎事項の復習(1)、 17 基礎事項の復習(2)								
18 色彩、動作に関する表現の復習								
19 複数単数の表現の違い								
20 場所、動作に関する表現、 21 ものがある場所を情報交換する表現								
22 さあ～をしようという表現、 23 時勢の表現								
24 感情の表現、 25 こどもの活動、遊戯での表現								
26 挨拶から活動の終わりまでの表現、 27 プレゼンテーション(1)								
28 プレゼンテーション(2)、 29 プレゼンテーション(3)、 30 まとめ								
単位認定の方法 及び基準・時間数	自宅学習 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	冊子を配布							
参 考 書								
準備学習内容	配布冊子にて事前学習を行うこと。							

授 業 科 目 名	保健体育 (講義、実技)	担 当 教 員	島田 敏紀 吉永 有佳	年 次	1年次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>文科省は、「小学校、中学校及び高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視する。その際、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要である。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことが重要である。体育については、体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。」としている。</p> <p>上記のような観点から、「健康とは何か」を考えながら「日々健康に過ごすためにはどのような生活を送るべきか」「どうすれば楽しく運動できるか」を実践する。同時に幾多の多方面からもアプローチし、現状打開に寄与する方法も考えたい。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 実技</p> <p>(1) 身近にあるものを使っての運動</p> <p>(2) 運動の進め方</p> <p>(3) 運動時の留意事項</p> <p>2 講義</p> <p>(1) 健康と栄養</p> <p>(2) 健康と休息</p> <p>(3) 運動好き・運動嫌い</p> <p>(4) 現代の健康問題</p> <p>a. 性について</p> <p>b. 応急処置</p>								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業（スクーリング）時間数 30時間 印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	適宜資料配布							
参 考 書								
準備学習内容	配布される資料をもとに事前学習を行うこと。							

授 業 科 目 名	保 育 原 理 (講 義)	担 当 教 員	小 保 方 敬 子	開 講 期 ・ 年 次	後 期	必 修 科 目	単 位	2
					1 年 次			
授業目標 1 保育の意義及び目的について理解する。 2 保育に関する法令及び制度を理解する。 3 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5 保育の現状と課題について理解する。								
授業内容の計画 1 保育の意義及び目的 (1) 保育の理念と概念 (2) 子どもの最善の利益と保育 (3) 子ども家庭福祉と保育 (4) 保育の社会的役割と責任 2 保育に関する法令及び制度 (1) 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令 (2) 子ども・子育て支援新制度 (3) 保育の実施体系 3 保育所保育指針における保育の基本 (1) 保育所保育指針 (2) 保育所保育に関する基本原則 (3) 保育における養護 (4) 保育の目標 (5) 保育の内容 (6) 保育の環境・方法 (7) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環 4 保育の思想と歴史的変遷 (1) 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 日本の保育の思想と歴史 5 保育の現状と課題 (1) 諸外国の保育の現状 (2) 日本の保育の現状と課題								
単 位 認 定 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。						
教 科 書		新・基本保育シリーズ① 保育原理（中央法規出版） 平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（原本）（チャイルド本社） 保育所保育指針（解説書）平成 30 年 3 月 （フレーベル館）						
参 考 書								
準 備 学 習 内 容		教科書を読み、事前に予習しておくこと。						

授 業 科 目 名	子ども家庭福祉 (講義)	担 当 教 員	古 谷 泰 啓 小 保 方 敬 子	開 講 期 ・ 年 次	中 期 1 年 次	必 修 科 目	単 位	2
授業目標 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護について理解する。 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。								
授業内容の計画 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 (1) 子ども家庭福祉の理念と概念 (2) 子ども家庭福祉の歴史の変遷 (3) 現代社会と子ども家庭福祉 2 子どもの人権擁護 (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷 (2) 児童の権利に関する条約 (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題 3 子ども家庭福祉の制度と実施体系 (1) 子ども家庭福祉の制度と法体系 (2) 子ども家庭福祉の実施体系 (3) 児童福祉施設 (4) 子ども家庭福祉の専門職 4 子ども家庭福祉の現状と課題 (1) 少子化と地域子育て支援 (2) 母子保健と子どもの健全育成 (3) 多様な保育ニーズへの対応 (4) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 (5) 社会的養護 (6) 障害のある子どもへの対応 (7) 少年非行等への対応 (8) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 5 子ども家庭福祉の動向と展望 (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 (2) 地域における連携・協働とネットワーク (3) 諸外国の動向								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 (中央保育出版)							
参 考 書								
準備学習内容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科目名	社会福祉 (講義)	担 当 教 員	小保方 敬子 榎原 直美	開講期 ・年次	中 期	必修 科目	単 位	2
					1 年次			
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について理解する。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 (3) 子ども家庭支援と社会福祉 2 社会福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の制度と法体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 (3) 社会福祉施設 (4) 社会福祉の専門職 (5) 社会保障及び関連制度の概要 3 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の理論 (2) 相談援助の意義と機能 (3) 相談援助の対象と過程 (4) 相談援助の方法と技術 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 5 社会福祉の動向と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化社会における子育て支援 (2) 共生社会の実現と障害者施策 (3) 在宅福祉・地域福祉の推進 (4) 諸外国の動向 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 (中央法規出版)							
参 考 書	新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉 [第4版] (中央法規出版)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	子 ども 家 庭 支 援 論 (講 義)	担 当 教 員	岡 上 繭 子	開 講 期 ・ 年 次	後 期	必 修 科 目	単 位	2
					1 年 次			
授業目標								
<p>保育所の持つ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保有の対象であることを理解する。</p> <p>「子育て支援」は保育所だけではなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解する。</p> <p>現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係（夫婦・親子・きょうだい）の在り方を理解すること及びそれを踏まえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解する。</p> <p>これらをふまえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための様々の援助活動及び関係機関との連携について理解する。</p>								
授業内容の計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会の変容と子育て家庭の現状理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て家庭を取り巻く社会環境 (2) 子育て家庭への家庭支援 2 家族とはなにか <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族・家庭の意味（意義） (2) 家族（形態）の機能・変化 (3) 家庭（形態）の機能・変化 3 今日における家族生活・関係 <ol style="list-style-type: none"> (1) 夫婦関係（子どもからみた両親の在り方） (2) 親子関係・きょうだい関係 4 子育て支援としての家族への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 親理解 (2) 子育て家庭への就労理解・支援 (3) 養護の理解・児童福祉体系理解 (4) 現状の子育て支援サービス・今後の課題 (5) 保育士視点での家庭支援 (6) 子ども虐待の理解と家族支援 (7) 障がいのある子どもに対する理解と家族支援 (8) 子育て家庭への支援課題 								
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。						
教 科 書		新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論（中央法規出版）						
参 考 書		平成 30 年度版 少子化社会対策白書（内閣府）						
準 備 学 習 内 容		教科書や参考書で事前に予習しておくこと。						

授 業 科目名	保育の心理学 (講義)	担 当 教 員	小川 万希子	開 講 期 ・ 年 次	中 期 1 年 次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>子どもの発達に関する心理学諸理論を学び、基本的な知識を習得することを通じて「発達のな見方」の基礎を培うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 保育実践を評価する 5 社会情動的発達①自我 6 社会情動的発達②他者 7 社会情動的発達③他者との関わり 8 身体的機能と運動機能の発達 9 認知の発達 10 数の認識の発達 11 言語の発達 12 乳幼児期の学びに関わる理論 13 社会情動的学び 14 認知的学び 15 乳幼児期の学びを支える保育 <p>(学習について)</p> <p>日常生活の中で人を「発達のな見方」で観察してもらいたい。 また、できる限り新聞・報道に関心を持つこと。</p>								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学 (中央法規出版)							
参 考 書	子どもの心の発達がわかる本 (講談社) 育てにくい子にはわけがある (大月書店) 発達がわかれば子どもが見える (ぎょうせい)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	子どもの理解と援助 (演習)	担 当 教 員	大 井 彰 之	年 次	1年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>生涯発達の観点から、人間の心身の発達についての理解を深める。さらに、今まで学んできた知識を、保育実践の場で実際に活用していく力を身につける。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 2 子どもを理解する視点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの生活や学び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち (5) 葛藤やつまずき (6) 保育の環境の理解と構成 (7) 環境の変化や移行 3 子どもを理解する方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 観察 (2) 記録 (3) 省察・評価 (4) 職員間の対話 (5) 保護者との情報の共有 4 子どもの理解に基づく発達援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (3) 発達の連続性と就学への支援 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業（スクーリング） 15時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの理解と援助（中央法規出版）							
参 考 書	育てにくい子にはわけがある（大月書店）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科目名	子どもの保健 (講義)	担 当 教 員	西 涼 子	開講期 ・年次	中 期 1 年次	必修 科目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>子どもの保健とは、からだと心の健康を保ち、増進するためにおこなう専門的な行為です。専門的な行為ですから、その裏には知識と技術が必要となります。</p> <p>この科目では、子どもの身体発育や生理機能の特性、子どもの健康状態とその把握疾病とその予防・対応などの保健対応に必要な基礎的な事項を学びます。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2 健康の概念と健康指標 3 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4 地域における保健活動と児童虐待防止 5 身体発育及び運動機能の発育と保健 6 生理機能の発育と保健 7 健康状態の観察の心身の不調等の早期発見 8 発育・発達の把握と健康診断 9 保護者との情報共有 10 主な疾病の特徴 11 子どもの疾病の予防と適切な対応 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ① 子どもの保健 (中央法規出版)							
参 考 書								
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容総論 (演習)	担 当 教 員	山口 由起子	年 次	1年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>元大阪市立保育所 所長を経て、保育現場での豊富な経験をもとに具体的な事例と共に以下の内容を説いていく。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容の」の関連を理解する。 2 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景沿線等を踏まえ保育の内余の基本的な考え方、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・考察・評価・改善）に繋げて理解する。 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所保育指針に基づく保育の全体構造 2 保育の全体構造と保育内容①養護にかかわる内容 3 保育の全体構造と保育内容②教育にかかわる内容 4 保育内容の歴史的変遷と社会的背景 5 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方 6 養護と教育が一体的に展開される保育 7 子どもの主体性を尊重する保育 8 環境を通して行う保育 9 生活や遊びによる総合的な保育 (模擬保育) 10 個と集団の発達をふまえた保育 (模擬保育) 11 家庭や地域等との連携をふまえた保育 12 小学校等との連携・接続をふまえた保育 13 長時間の保育 14 特別な配慮を要する子どもの保育 15 多文化共生の保育 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	<p>面接授業（スクーリング）時間数 15時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。</p>							
教 科 書	<p>新・基本保育シリーズ⑭ 保育内容総論 (中央法規出版) 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領〈原本〉(チャイルド本社) 保育所保育指針(解説書)平成30年3月 (フレーベル館)</p>							
参 考 書								
準備学習内容	<p>教科書を読み、事前に予習しておくこと。</p>							

授 業 科 目 名	保育内容の理解と 方法 I (音楽・体育・図画工作) (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香 井上 眞澄 直原 信子	年 次	1 年次	必 修 科 目	単 位	2
授業目標 保育の内容を理解するために必要な知識や技能の習得を目標とします。音楽・造形・身体表現に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能の習得を目標とします。 身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動機能を高めます。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成したり、それらに必要な知識や技能の習得を目標とします。また、言語表現に関する知識や技術の習得もあわせて行い、基本的スキルを元に教材活用や作成が出来るようになることを目的とします。								
授業計画の内容 1 音楽に関する基本的な知識や技能 2 楽譜を読むために必要な基本的な知識 (音楽理論) 3 演奏するために必要なソルフエージュと器楽に関する知識や技能 4 保育実践において必要な、弾き歌いとピアノの演奏技能 5 保育実践リトミックの技能と指導法 6 造形に関する基本的な知識や技能 7 造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識 8 描き作るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能 9 身体表現活動に関する基本的な知識や技能 10 身体運動に関する基本的な知識と技能 11 保育実践において必要な知識や技能 12 言語表現等に関する知識や技能 13 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術 14 子どもが自ら児童文化財等と触れ合う機会の展開 15 子どもの様々な表現活動と児童文化財等との結び付けを行う遊びの展開								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	面接授業 (スクーリング) 時間数 15 時間 印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	面接授業時、担当者より資料を配布する。 (音楽) 「標準バイエルピアノ教則本」 全音楽譜出版社 「やさしい弾き歌い 75」 音楽之友社							
参 考 書	「楽しく絵を描く実践ライブ」 (ひかりのくに) (図画工作対象) 「身体表現をたのしむあそび作品集」 (かもがわ出版) (体育対象) 「子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ」 (萌文書林) (音楽対象)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	乳児保育Ⅱ (演習)	担 当 教 員	山口 由起子	年 次	1 年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>元大阪市立保育所 所長を経て、保育現場での豊富な経験をもとに具体的な事例と共に以下の内容を説いていく。</p> <p>授業目標</p> <p>1 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>4 上記1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 乳児保育の基本</p> <p>(1) 子どもと保育士等との関係の重要性</p> <p>(2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり</p> <p>(3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち</p> <p>(4) 子どもの体験と学びの芽生え</p> <p>2 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際</p> <p>(1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境</p> <p>(2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成</p> <p>(3) 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際</p> <p>(4) 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際</p> <p>(5) 子ども同士の関わりとその援助の実際</p> <p>3 乳児保育における配慮の実際</p> <p>(1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮</p> <p>(2) 集団での生活における配慮</p> <p>(3) 環境の変化や移行に対する配慮</p> <p>4 乳児保育における計画の実際</p> <p>(1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画</p> <p>(2) 個別的な指導計画と集団の個別計画</p>								
単位認定の方法 及び基準・時間数	<p>面接授業（スクーリング） 15 時間</p> <p>面接授業評価 [100%]</p> <p>評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。</p>							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（中央法規出版）							
参 考 書	乳児保育—子どもの豊かな育ちを求めて—（萌文書林）							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	子どもの健康と 安全 (演習)	担 当 教 員	西 涼 子	年 次	1 年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>保育の場における子どもの健康や安全を守り、よって健やかな成長を促すための専門性を実技や演習で学ぶ。</p> <p>保育における衛生管理・事故防止を具体的に理解する。 子どもの体調不良等についての適切な対応について具体的に理解する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における健康観察と体調不良の発見 バイタルサイン測定 2 体調不良や障がいが発生した場合の対応 吐物処理の方法 3 子どもの事故防止および安全対策 保育室の環境を考える グループワーク 4 3歳児未満への対応 乳幼児身体発育曲線で考える。 5 第一次救命 応急手当 AED 窒息時の対応 6 保育における衛生管理 手洗い 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業 (スクーリング) 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑯ 子どもの健康と安全 (中央法規出版)							
参 考 書								
準備学習内容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育所実習 I (実習)	担当 教員	小安岡渡小上 保田林部林田 方賀沙部林恵 敬津智准矢理 子子保子香子	開 講 期 ・ 年 次	1 年次	必修 科目	単 位	2
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもの理解を深める。 3 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 保育所実習の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針の理解に基づく保育の展開 2 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (3) 子どもの観察とその記録による理解 (4) 子どもの発達過程の理解 (5) 子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	実習期間 10 日間かつ 80 時間 実習園及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
実 習 先 で の 学 習 に つ い て	実習園に訪問してオリエンテーションを受ける。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習 (中央法規出版)							
参 考 書	実習に役立つ保育技術 (創成社) 保育指導案大百科事典 (一藝社) 福祉施設実習ハンドブックー保育士養成課程 (みらい)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育実習指導 I (1) (演習)	担当 教員	小安岡渡小上 保田林部林上 方賀津部林上 敬賀津部林上 子津智准子香 子保子香理子	開 講 期 ・ 年 次	1 年次	必修 科目	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3 実習に際しての留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4 実習の計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 								
単位認定の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間 45 時間。 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・基本保育シリーズ⑩ 保育実習 (中央法規出版)							
参 考 書	実習に役立つ保育技術 (創成社) 保育指導案大百科事典 (一藝社) 福祉施設実習ハンドブックー保育士養成課程 (みらい)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	教育原理(講義)	担 当 教 員	林 泰子 安田 賀津子	開 講 期 ・ 年 次	前 期 2 年 次	必 修 科 目	単 位	2
授業目標 1 教育の意義、目的及び児童福祉等のかかわりについて理解する。 2 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3 教育の制度について理解する。 4 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。								
授業内容の計画 1 教育の意義 2 教育の目的 3 教育と児童福祉の関連性 4 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 5 諸外国との教育思想と歴史 6 日本の教育思想と歴史 7 児童観と教育観の変遷 8 教育制度の基礎 9 教育法規・教育行政の基礎 10 諸外国の教育制度 11 教育実践の基礎理論（内容、方法、計画と評価） 12 教育実践の多様な取り組み 13 生涯学習社会と教育 14 現代の教育課題 15 現代の教育課題								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ② 教育原理 (中央法規出版)							
参 考 書	改訂2版 新・保育士養成講座 第2巻 教育原理 (全国社会福祉協議会)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	相談援助（演習）	担当 教員	小保方 敬子 榎原 直美	年 次	2 年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の概要について理解する。 2 相談援助の方法と技術について理解する。 3 相談援助の具体的展開について理解する。 4 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の理論 (2) 相談援助の意義 (3) 相談援助の機能 (4) 相談援助とソーシャルワーク (5) 保育とソーシャルワーク 2 相談援助の方法と技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の対象 (2) 相談援助の過程 (3) 相談援助の技術・アプローチ 3 相談援助の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画・記録・評価 (2) 関係機関との協働 (3) 多様な専門職との連携 (4) 社会資源の活用、調整、開発 4 事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 虐待の予防と対応等の事例分析 (2) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析 (3) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業（スクーリング） 15時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑤ 相談援助（中央法規出版）							
参 考 書	演習・保育と相談援助 [第2版]（みらい）							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	社会的養護 (講義)	担 当 教 員	村江 昇	開 講 期 ・ 年 次	前 期 2 年 次	必 修 科 目	単 位	2
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5 社会的養護の現状と課題について理解する。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史の変遷 3 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 4 児童の権利擁護と社会的養護 5 社会的養護の制度と法体系 6 社会的養護の仕組みと実施体系 7 家庭的養護と施設養護 8 社会的養護の専門職・実施者 9 施設養護の基本原則 10 施設養護の実際（日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等） 11 施設養護とソーシャルワーク 12 施設等の運営管理 13 倫理の確立 14 被措置児童等の虐待防止 15 社会的養護と地域福祉 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 [第2版] (中央法規出版)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科目名	保育者論（講義）	担 当 教 員	藤村 節子	開 講 期 ・ 年 次	前 期 2 年 次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>保育者の役割と倫理について理解し、保育者の制度的な役割についても理解する。 保育者の専門性について考察し、関わり方について理解する。保育者の社会的立場について理解する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者の役割と倫理 2 保育者の資格と専門性 3 子どもの発達への視点 4 保護者との連携の持ち方 5 養護と教育の一体化とは 6 専門機関、地域との連携 7 保育者の自己評価と協働のありかた 8 子どもの安全と命を守る 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑦ 保育者論 [第2版] (中央法規出版)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	子どもの保健Ⅰ (2) (講義)	担 当 教 員	西 涼 子	開講期 ・年次	前 期 2 年次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>子どもの保健とは、からだと心の健康を保ち増進するためにおこなう専門的な行為です。専門的な行為ですから、その裏には知識が必要となります。</p> <p>この科目では、子どもの心身の成長・発達を学び、またすこやかに成長発達するために保育士として知っておかねばならない、環境づくり、保健活動の意義、疾病の理解、そして施設などでの体制について理解をしていきます。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育環境整備と保健 2 保育現場における衛生管理 3 保育現場における事故防止 4 保育現場の安全対策並びに危機管理 5 母子保健対策と保育 家庭、専門機関、地域との連携 6 職員間の連携と組織的取り組み 7 子どもの精神保健 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑩ 子どもの保健Ⅰ (中央法規出版)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	子どもの食と栄養 (演習)	担 当 教 員	隅 淳子	年 次	2年次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となり、この時期の栄養や食事内容は小児の健康や身体の発育、精神の発達、情緒の安定に大きく影響する。</p> <p>保育者として、保育との関連の中で、小児に適切な食事が提供できるよう、小児期の食生活の特徴や注意点、バランスの良い献立の作成に必要な栄養素や食品構成の知識等について学び、実習を通じて習得する事を目的とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発育・発達と食生活 2 栄養の基礎知識 3 乳児期の栄養と食生活 4 幼児期・学童期・思春期の食生活 5 子どもの病気・アレルギーと食生活 6 調理実習 7 障がいがある子どもの食生活 8 児童福祉施設における食生活と食育・確認テスト 9 調理実習 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 面接授業 (スクーリング) 時間数 15 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養 (中央法規出版)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (健康) (演習)	担当 教員	吉永 有佳	開講期 ・年次	後 期 2 年次	必修 科目	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものであることを理解する。 2 領域別（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。 3 保育士として、発達過程に即して子どもを理解するとともに、総合的に指導・援助が行えるように実践的な力を習得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容「健康」のねらい・内容 2 幼児の健康、発達理解 3 幼児のあそびの発達と健康 4 幼児の体格・運動能力の現状及び運動能力測定法 5 幼児の健康と生活習慣 6 幼児の安全管理と安全教育 7 応急処置法 8 環境と運動体験活動への展開 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新保育ライブラリ 保育内容「健康」新版（北大路書房）							
参 考 書	事例で学ぶ保育内容 領域 健康 改訂版7版 （萌文書林）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (環境) (演習)	担当 教員	山口 由起子	開講期 ・年次	前 期 2 年次	必修 科目	単 位	1
<p>元大阪市立保育所 所長を経て、保育現場での豊富な経験をもとに具体的な事例と共に以下の内容を説いていく。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものであることを理解する。 2 領域別 (健康・人間関係・環境・言葉・表現) の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。 3 保育士として、発達過程に即して子どもを理解するとともに、総合的に指導・援助が行えるように実践的な力を習得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育保育における「環境」の理解 (子どもの育ちと「環境」とのかかわり) 2 生きる力の基礎と領域「環境」(ねらいと内容) 3 子どもの育ちと領域「環境」(子どもの発達と環境) 4 子どもを取り巻く人的環境 (子どもと園で働く人々・子ども同士のかかわり・子どもと家庭・地域) 5 子どもを取り巻く物的環境 (遊び・生活における道具・数・図形・文字・他) 6 子どもを取り巻く社会的環境 (地域社会・関係機関) 7 子どもを取り巻く自然環境 (子どもと季節・身近な自然) 8 子どもの生きる力を育む環境 (自立・好奇心・探究心・思考・判断する心の育み・表現・道徳心他) 9 子どもを守り育てる環境 (生命の保持・情緒の安定) 10 気になる子どもの環境 (障害・子どもと文化) 11 環境を通した教育・保育の課題 (子どもを取り巻く社会的環境による課題) 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	保育内容 環境 ―あなたならどうしますか?― (萌文書林)							
参 考 書	新時代の保育双書 保育内容 『環境』[第3版] (みらい) 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 改訂版 (萌文書林)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (言葉) (演習)	担当 教員	山口 由起子	開講期 ・年次	前 期 2 年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>元大阪市立保育所 所長を経て、保育現場での豊富な経験をもとに具体的な事例と共に以下の内容を説いていく。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものであることを理解する。 2 領域別（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の教科の学びと共に、それらを総合的にとられる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。 3 保育士として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるように実践的な力を習得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言語発達の概観（言語発達の理論・子どもの育ちとことば） 2 身体の発達とことば（人間関係・環境・表現能力） 3 子どもの言葉の発達（0・1・2歳児のことばと保育者のかかわり） 4 子どもの言葉の発達（3・4・5歳児のことばと保育者のかかわり） 5 ことばの発達の援助（保育計画や実践） 6 現代社会とことばの発達（小学校との連携） 7 子育て支援・多文化共生社会・情報社会におけることばの指導 8 子どもへの保育者の役割（子どもとの接し方・ことばの発達をうながす援助） 9 ことばの環境と文化財 10 絵本から児童文学へ（絵本・紙芝居・ことばで遊ぶ他） 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	新時代の保育双書 保育内容 ことば [第3版] (みらい)							
参 考 書	保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第3版 (同文書院)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	乳児保育 (2) (演習)	担当 教員	山口 由起子	開講期 ・年次	後 期	必 修 科 目	単 位	1
					2 年次			
元大阪市立保育所 所長を経て、保育現場での豊富な経験をもとに具体的な事例と共に以下の内容を説いていく。								
授業目標								
1 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。								
2 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。								
3 3歳未満児の発育発達について学び、健やかな成長を支える。 3歳未満児の生活について理解する。								
4 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。								
5 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。								
授業内容の計画								
1 オリエンテーション・・・乳児保育の理念と意義								
2 保育所における乳児保育の現状と課題								
3 乳児院における乳児保育の現状								
4 家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題								
5 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場								
6 乳児保育における基本的な援助や関わり								
7 6か月未満児の発達と保育内容								
8 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容								
9 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容								
10 2歳児の発達と保育内容								
11 乳児保育の計画と記録と反省 「記録と評価 家庭とのつながり」(記録の実際例)								
12 乳児保育の環境づくり								
13 乳児保育における保育者の役割								
14 乳児保育における保護者との連携								
15 保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑩ 乳児保育 (中央法規出版)							
参 考 書	『乳児保育』—子どもの豊かな育ちを求めて— (萌文書林)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	障害児保育 (演習)	担 当 教 員	山口 由起子	年 次	2 年次	必 修 科 目	単 位	2
元大阪市立保育所 所長を経て長年の現場経験から、統合保育として保育実践の経験をもとに以下の内容を説いていく。								
授業目標								
1 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。								
2 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。								
3 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。								
4 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。								
5 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。								
授業内容の計画								
1 障害の概要と対象 障害の概念 児童福祉（障害児保育を含む）の対象								
2 障害児保育の歴史の変遷 戦後の障害児保育の変遷 障害児保育の発展と充実 現在の障害児保育								
3 視覚・聴覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類 視覚障害児の特性と援助 聴覚障害の分類 聴覚障害の特性と援助								
4 肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由の心理特性・保育におけるねらい								
5 知的障害児の理解と援助 知的障害の理解・保育・専門関係との連携								
6 発達障害児の理解と援助 発達障害とは（ADHD・LD）特性に応じた対応								
7 // 自閉症スペクトラム 言語発達段階								
8 個々の発達をうながす生活や遊びの環境								
9 子ども同士のかかわりと育ち合い								
10 保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価								
11 個別の支援計画								
12 保護者や家庭に対する支援								
13 地域の専門機関との連携								
14 小学校との連携								
15 福祉・教育における現状と課題								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間 45 時間 面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑩ 障害児保育（中央法規出版） 平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（原本）（チャイルド本社） 保育所保育指針（解説書）平成 30 年 3 月（フレーベル館）							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	社会的養護内容 (演習)	担 当 教 員	村 江 昇	年 次	2 年次	必修 科 目	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。 授業内容の計画 <p>面接授業内で、下記の語群からテーマを抽出して理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における児童の権利条約と保育士等の倫理及び責務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の権利擁護 (2) 保育士等の倫理及び責務 2 社会的養護の実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の特性及び実際 (2) 里親制度の特性及び実際 3 支援と計画の内容及び事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別支援計画の作成 (2) 日常生活支援に関する事例分析 (3) 治療的支援に関する事例分析 (4) 自立支援に関する事例分析 (5) 記録及び自己評価 4 社会的養護にかかわる専門的技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用 (2) ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 5 今後の課題と展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の小規模化と地域とのかかわり (2) 社会的養護の課題と展望 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑱ 社会的養護内容（中央法規出版）							
参 考 書	新聞などの資料をプリントして配布。							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育の表現技術Ⅱ (音楽)(体育)(図画工作) (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香 井上 眞澄 岡田 妙子	年 次	2 年次	必 修 科 目	単 位	2
授業目標 <p>保育の表現技術Ⅰに引き続き、保育の内容を理解するために必要な知識や技能の習得を目標とします。</p> <p>音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能の習得を目標とします。</p> <p>身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動機能を高めます。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成し、それらに必要な知識や技能の習得を目標とします。</p> <p>言語表現については、基本的な知識理解をもとに、子ども自身が持つ言語表現能力を引き出せるような働きかけや、更に発展していくような関わりを、身の回りにある児童文化財や伝承遊び等を通じて、技能を習得します。</p>								
授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育内容表現における「音楽」についての考察。 (2) 保育現場での実践的弾き歌い演奏や簡易楽器の合奏指導法を習得。 (3) リトミック指導法を実践的内容として各自発表しレポートにまとめる。 (4) 子どもに合わせたピアノ伴奏法など保育実践において必要な知識と技能の習得。 2 造形に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な造形に活動を通しての楽しさや喜びの経験 (2) 造形玩具、遊具、ペープサート、影絵など保育実践において必要な知識や技能 3 体育に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 運動遊びにおける安全管理 4 言語表現に関する知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 伝承遊びや、児童文化財に触れることを通じて、児童自身が持つ言語表現能力を引き出し、更に発展させていくことが出来る知識や技能を習得する 								
単位認定の方法 及び基準・時間 数	面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	面接授業時、担当者より資料を配布。							
参 考 書	製作よくばり図鑑 （ひかりのくに）（図画工作対象）							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	施 設 実 習 I (実習)	担 当 教 員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開講期 ・年次	通 年 2 年次	必 修 科 目	単 位	2
実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 実習内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり 3 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた対応 (3) 子どもの活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	実習期間 10 日間かつ 80 時間 実習園及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
実 習 先 で の 学 習 に つ い て	実習施設に訪問してオリエンテーションを受ける。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑳ 保育実習（中央法規出版）							
参 考 書	新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習（みらい） 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』（一藝社）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育実習指導 I (2) (演習)	担 当 教 員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開 講 期 ・ 年 次	通 年 2 年 次	必 修 科 目	単 位	1
<p>保育現場での経験が豊富な、複数の教員が、具体的な子どもの様子や発達に応じた保育内容を実践的に学べるよう、以下の内容を説いていく。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の統括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の内容 (2) 実習の課題（書類の下書き提出及び講師の添削）（実習オリエンテーションの参加） 3 実習に際しての留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4 実習の計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間 45 時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート[100%]事前課題レポートを提出日までに必提出 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑳ 保育実習（中央法規出版）							
参 考 書	新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習（みらい） 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』（一藝社）							

授 業 科 目 名	保育実践演習 (2) (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香	開講期 ・年次	後 期 2年次	必修 科目	単 位	1
授業目標 1 必須科目及び選択必須科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を取得したことを確認する。 2 保育観や子どもの理解、保育活動や環境の構成、指導、援助のあり方などを学ぶ。								
授業内容の計画 「保育実践演習」は、保育にかかわる課題の中から分析、検討を行うと共に、その課題について、子どもや保護者を援助するための技術、方法について習得することを目的とします。								
1 保育士のマナーと保育に対する姿勢についての確認、役割分担とその内容について 2 表現技法の習得と指導法 (1) 合奏指導法と実践 (2) マーチング指導法と実践 (3) 保育行事を考える (乳児・幼児) (4) 「生活発表会」を考える (5) ミュージカルの実践 (6) 年齢別リトミックの実践 3 合奏譜作成に関するアドバイス (1) 年齢に応じた楽器の使い方 (2) 年齢に応じた合奏譜の作成 4 リズム表現やリトミックを主軸に音楽表現に繋がる指導計画を考える								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	資料は授業内で適宜に配布。							
参 考 書	子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ (萌文書林)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科目名	保育課程論 (講義)	担 当 教 員	村上 優子	開 講 期 ・ 年 次	前 期 3 年 次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3 計画、実践、省察、評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の計画と評価の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムの基礎理論 (2) 保育所における保育の計画と評価の意義 (3) 保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義 (4) 計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上 2 保育所における保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針と幼稚園教育要領 (2) 保育課程と指導計画 (3) 保育課程の編成 (4) 指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項 3 保育の計画の作成と展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程の編成と展開 (2) 指導計画の実際の作成と展開 4 保育所における保育の評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の省察及び記録 (2) 保育士及び保育所の自己評価 (3) 保育の計画の再編成 (4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑭「教育課程・保育課程論」(中央法規出版) 平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(原本) (チャイルド本社) 保育所保育指針解説書 平成 30 年 3 月 (フレーベル館)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (人間関係) (演習)	担当 教員	藤村 節子	年 次	3 年次	必修 科目	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものであることを理解する。 2 領域別（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。 3 保育士として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるように実践的な力を習得する。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 「人間関係」の内容と要点について 2 現代社会の子どもの人間関係 3 乳幼児期の人間関係の発達と問題点 4 親子関係の心理及び対人関係の心理 5 家庭での人間関係の育ち 6 遊びの中で育つ人間関係（乳児期） 7 遊びの中で育つ人間関係（幼児期） 8 問題行動の理解と指導及び自己効用感の重要性 9 幼児とストレス 10 保護者との連携のすすめ方 11 子どもの育ちのプロセスにおける特別な配慮 12 「生きる力」育成要素としての人間関係の重要性 13 人間関係の広がりや深まり及び今後の課題 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新ライブラリ 保育内容「人間関係」（北大路書房）							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (表現) 音楽 (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香	年 次	3 年次	必修 科 目	単 位	1 ※
<p>※ 単位数は、保育内容演習 I (表現) 音楽・図画工作・体育 を合わせて1単位とする</p> <p>授業内容</p> <p>1年次、2年次での学習をふまえて、保育の領域に関して保育内容の研究を深めていく。 DVD教材を使い、保育現場の実践的応用など、総合的な実技授業をする。 こどもが共同作業の大切さ、集団の中での個の役割を実感出来るような指導を目標とする。 2年目に引き続き、ピアノの技術能力が個人の目標に達成することが、最終課題である。 また資格取得年次のため、卒業実技試験を実施する。各個人の3年間での習得内容や努力なども評価とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容表現「音楽」に関する総合的な知識と技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 弾き歌いの技能の必要性 (2) 単位修得実技試験の実施 2 保育者の表現能力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 弾き歌いの伴奏法 (2) 合奏などのリズムを引き出す伴奏法 3 保育者の実技能力の重要性 <ol style="list-style-type: none"> (1) こどもの歌唱指導における伴奏の重要性 (2) 移調など、歌唱指導に必要な楽典知識の習得 (3) コードの習得 4 音楽を実践するという観点から、もう一度、合奏指導の知識と選曲の留意点、音楽表現とリズム能力を高めるためのリトミックなど習得の確認をする。 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	<p>面接授業による時間数 5時間 面接授業試験(実技試験) [100%] 実技試験は各自選曲した10曲中、当日指定3曲を引き歌う。なお、合否は以下 ①～③を踏まえ、保育士試験の実技試験レベルに合わせた判定とする。 ①前奏を付け、止まらない、引き直さないこと ②歌は聞こえるようにしっかり歌うこと ③子どもがいる想定を忘れずに保育士の立場で引き歌うこと 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。 ※但し、音楽・図画工作・体育 の総合評価とする。</p>							
教 科 書	適宜配布。							
準備学習内容	配布される資料をもとに事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (表現) 図画工作 (演習)	担 当 教 員	井 上 眞 澄	年 次	3 年次	必 修 科 目	単 位	1 ※
<p>※ 単位数は、保育内容演習 I (表現) 音楽・図画工作・体育 を合わせて1単位とする</p> <p>授業目標</p> <p>5 領域のうち表現の観点から子どもの発達をとらえ、理解を深めながら保育内容について実践的に学ぶ。子どもの豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする保育を展開していく為の知識・技能・判断力を習得する。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 技法あそびのための基礎知識</p> <p>(1) 材料用具のそろえ方</p> <p>(2) 環境構成</p> <p>(3) かかわりかた</p> <p>(4) かたづけ</p> <p>(5) 保護者との連携</p> <p>(6) 技法あそびの展開</p> <p>2 技法あそび基本と実践</p> <p>(1) 絵の具の技法あそび</p> <p>(2) パス・コンテの技法あそび</p> <p>(3) ペンの技法あそび</p> <p>(4) 版画</p> <p>(5) コラージュ</p>								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	<p>面接授業による時間数 5時間</p> <p>面接授業評価 [100%]</p> <p>評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。</p> <p>※但し、音楽・図画工作・体育 との総合評価とする。</p>							
教 科 書	適時資料を配付。							
参 考 書	技法あそび実践ライブ (ひかりのくに)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習 I (表現) 体育 (演習)	担 当 教 員	吉永 有佳	年 次	3 年次	必 修 科 目	単 位	1 ※
<p>※ 単位数は、保育内容演習 I (表現) 音楽・図画工作・体育 を合わせて1単位とする</p> <p>授業目標</p> <p>保育士になる者が学ばなければならない専門科目としての表現領域に関する体育分野である。乳幼児の表現に関する行為には、表情・身振り・会話・しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合表現等まで、生活経験と心の動きにより発達に応じてさまざななものがある。乳幼児の発達をとらえる一視点としての、豊かな感性と創造性に深く関わる保育内容領域「表現」について学習する基礎講座である。</p> <p>また、実技を通して、保育者自身の感性を豊かにすることとともに、幼児の表現を豊かに育むために必要な方法を学ぶ。</p> <p>身体表現に必要な体力や、身体機能を養うために、運動遊びを取り入れ指導方法を理解する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期における身体表現の意義 2 リズム遊び 3 音階遊び 4 用具を使った遊び①フープ 5 用具を使った遊び②ボール 6 鬼遊び 7 リズムダンス 8 創作 9 作品発表 10 まとめ 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	<p>面接授業による時間数 5時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。 ※但し、音楽・図画工作・体育 との総合評価とする。</p>							
教 科 書	<p>幼児体育 基礎理論と指導の方法 (樹村房)</p>							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	<p>教科書を読み、事前に予習しておくこと。</p>							

授 業 科 目 名	保育相談支援 (演習)	担 当 教 員	藤 村 節 子	年 次	3 年次	必 修 科 目	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>現代社会の変化に伴い、家庭への支援のあり方も、変わってきています。 保育相談支援の実際を学習するなかで、支援のあり方を考察する。 保育者の専門性とは何かを考え、また、地域の中の施設として、地域社会との連携のあり方についても、考察する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育相談支援の意義と基本 2 現代社会の変化と抱える課題 3 子どもの最善の利益と福祉の重視 4 保育士の専門性とは 5 保護者に対する支援のあり方 6 保育相談支援の実際 7 児童福祉施設における相談支援 8 地域社会との連携のあり方 <p>複雑になる家庭の状況に、対応出来る専門性を、身につけることが、より必要になります。社会の変化、状況を、大きな視点で日々捉えていくよう努力してください。</p>								
単位認定の方法 及び基準・時間数	面接授業（スクーリング） 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑱ 保育相談支援 （中央法規出版）							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育実践演習 (3) (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香	年 次	3 年次	必修 科 目	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 必須科目及び選択必須科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識と技能を取得したことを確認する。 2 保育観や子どもの理解、保育活動や環境の構成、指導、援助のあり方などを学ぶ。 <p>授業内容の計画</p> <p>「保育実践演習」は、保育にかかわる課題の中から分析、検討を行うと共に、その課題について、子どもや保護者を援助するための技術、方法について習得することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育士のマナーと保育に対する姿勢についての確認、役割分担とその内容について 2 表現技法の習得と指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 合奏指導法と実践 (2) マーチング指導法と実践 (3) 保育行事を考える（乳児・幼児） (4) 「生活発表会」を考える (5) ミュージカルの実践 (6) 合唱とダンス 3 合奏譜作成に関するアドバイス <ol style="list-style-type: none"> (1) 年齢に応じた楽器の使い方 (2) 年齢に応じた合奏譜の作成 4 保育実践演習発表会 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	面接授業（スクーリング）15 時間 面接授業評価 [100%] ※面接授業試験を「保育実践演習発表会」とする。 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	適宜配布。							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	配布資料される資料をもとに事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	障害者に対する支援と 障害者自立支援法 (講義)	担 当 教 員	栗山 亜美	開 講 期 ・ 年 次	前 期 3 年次	必 修 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>本講では、まず障害者福祉の理念や歴史、障害者を取り巻く実状について概観する。その上で、相談援助において必須の知識となる障害者福祉の中心的な法制度の内容・仕組みを学習し、障害者に対する支援の在り方や関わり方について理解を深めることを目標とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉とは 2 障害の概念 3 障害者の生活実態 4 障害者福祉の歴史 5 障害者福祉の理念 6 障害者福祉の法制度体系（身体障害者福祉法） 7 " (知的障害者福祉法) 8 " (精神保健及び精神障害者福祉に関する法律) 9 " (障害者基本法、発達障害者支援法、医療観察法) 10 障害者における雇用問題（合理的配慮について） 11 障害者自立支援制度① 12 障害者自立支援制度② 13 専門職の役割・多職種連携 14 障害者に対する相談支援① 15 障害者に対する相談支援② 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度[第6版] (中央法規出版)							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	地域福祉の理論と 方法（講義）	担 当 教 員	門 脇 光 也	開講期 ・年次	前 期 3 年次	選 択 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>今日、地域福祉は大きな潮流となっており、その中で福祉実践としてどのような活動が出来るかが大きな課題となっている。例えば児童支援の施設における児童を対象とした実践もそういった地域福祉的視点から重要な意義を持っており、親、学校、地域住民を含めた総合的なネットサポートが必要不可欠になってきている。本講義ではそのような視点で理解を深めていきたい。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉の意義と諸問題 2 地域社会について（歴史的観点） 3 地域社会について（類型より） 4 コミュニティの概念と求められるもの 5 外国と日本でのコミュニティ 6 住民主体と参加（福祉 教育を含む） 7 地域諸機関、団体、及び専門職について 8 ニーズと社会資格 9 トータルケアシステムの構築を中心に 10 マネジメントのためのネットワーキングを中心に 11 具体的問題（児童虐待を中心に） 12 具体的問題（高齢者介護虐待を中心に） 13 具体的問題（障がい者問題を中心に） 14 評価と実際 15 今後の展望 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法[第3版]（中央法規出版）							
参 考 書	地域福祉の理論と方法 [第3版]（弘文堂）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科目名	保育の心理学Ⅲ (講義)	担 当 教 員	小川 万希子	開 講 期 ・ 年 次	前 期 3 年次	選 択 科 目	単 位	2
<p>授業目標 生涯発達の見点から、人間の心身の発達についての理解を深める。さらに、今まで学んできた知識を、保育実践の場で実際に活用していく力を身につける。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの身体の発達 2 子どもの自我の発達 3 乳児期の認知とことばの発達 4 幼児期の認知とことばの発達 5 愛着形成 6 社会性の発達 7 子どもの遊び 8 子どもの学び 9 乳幼児期の発達理解と援助 10 障害児の理解と援助 11 保育者自身の自己理解 12 保育者の成長・発達 13 保護者理解 14 保護者支援 15 まとめと振り返り 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	保育のための心理学ワークブック (ナカニシヤ出版)							
参 考 書	保育基本シリーズ⑧ 保育の心理学 I (中央法規出版) 新プリマーズ 保育/心理 発達心理学 (ミネルヴァ書房)							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	臨床心理学 (講義)	担 当 教 員	大井 彰之 小川 万希子	開 講 期 ・ 年 次	前 期 3 年次	選 択 科 目	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>臨床心理学は、応用心理学の一分野で、複数の考え方から成り立っている学問分野です。この授業では、臨床心理学を構成している様々な理論や技術について学びます。この講義を通して、受講生の皆さんが多様な人間理解を持ち、社会に還元する手助けになることを目指します。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 臨床心理学とは 2 臨床心理学の対象（1） 3 臨床心理学の対象（2） 4 臨床心理学的人間理解（性格検査） 5 臨床心理学的人間理解（発達検査） 6 臨床心理学的援助の方法（個人アプローチ①） 7 臨床心理学的援助の方法（個人アプローチ②） 8 臨床心理学的援助の方法（個人アプローチ③） 9 臨床心理学的援助の方法（個人アプローチ④） 10 臨床心理学的援助の方法（集団アプローチ） 11 臨床心理学実践の領域（教育） 12 臨床心理学実践の領域（福祉） 13 臨床心理学実践の領域（医療） 14 臨床心理学実践の領域（地域社会） 15 臨床心理学実践の領域（司法・産業） 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	「臨床心理学への招待」野島一彦著（ミネルヴァ書房）							
参 考 書								
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現)音楽 (演習)	担当 教員	坂本 千鶴子 荒子 夕香	開講期 ・年次	前 期	必修 科目	単 位	2 ※
					3 年 次			
※単位数は保育内容演習Ⅱ、音楽・図画工作・体育を合わせて2単位とする。								
授業目標 乳幼児の表現に関する行為には、表情・身振り・会話・しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合的表現などまで、生活経験と心の動きにより、発達に応じて様々なものがある。ここでは保育内容領域「音楽」についての学習内容を実践的な課題を中心により深く学習する。 2年目に引き続き、個人でのピアノ技術能力の向上を課題としたうえで、保育者としての感性を磨き表現能力を養い、実技演奏での表現技術を学ぶ。音楽表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、「表現」を育てるとはどういうことなのかを学び、乳幼児のよりよい環境を構築するための保育者の役割を考える。								
授業内容の計画 1 曲集制作 (1) 保育の1年を通して月ごとの曲、行事の曲、卒園の曲、こどもたちに伝えたい曲などを、各5曲ずつファイルにまとめ、オリジナルの曲集をつくる (2) 表紙を付ける (3) 目次を付ける (4) 月ごとの曲にはインデックスか見出しを入れる (5) 行事の曲、卒園の曲、こどもたちに伝えたい曲は5曲に拘らなくてよい 2 曲集練習 (1) 作成した曲集は、保育現場での実践曲集のため内容を練習する (2) 作成した曲集の弾き歌いと、歌唱指導ができるように練習する								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	担当者より資料を送付します。							
参 考 書								
準備学習内容	配布される資料をもとに事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現)図画工作 (演習)	担 当 教 員	井上 眞澄	開講期 ・年次	前 期 3 年次	必 修 科 目	単 位	2 ※
<p>※単位数は保育内容演習Ⅱ、音楽・図画工作・体育を合わせて2単位とする。</p> <p>授業目標</p> <p>乳幼児の表現に関する行為には、表情・身振り・会話・しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合表現等まで、生活経験と心の動きにより発達に応じてさまざまなものがある。乳幼児の発達をとらえる一視点としての、豊かな感性と創造性に深く関わる保育内容領域「表現」について学習する基礎講座である。</p> <p>精選された基本的な演習を通して、保育者としての感性を磨き表現能力を養いつつ、幼児の表現の特性を学ぶ。表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、表現を育てるとはどういうことなのかを学び、乳幼児のよりよき環境としての保育者の役割を考えていく。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 製作の基本</p> <p>(1) 用具の使い方</p> <p>(2) 紙製作の基本</p> <p>(3) 素材の使い方</p> <p>2 季節の製作物</p> <p>(1) 春の製作物 こいのぼり</p> <p>(2) 夏の製作物 七夕 夏祭り</p> <p>(3) 秋の製作物 自然物を使って</p> <p>(4) 冬の製作物 クリスマス</p>								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
参 考 書	製作あそび ハッピー保育ボックス (ひかりのくに)							
準備学習内容	参考書や周りの環境などをよく観察し、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現)体育 (演習)	担 当 教 員	吉 永 有 佳	開 講 期 ・ 年 次	後 期	必 修 科 目	単 位	2 ※
					3 年次			
<p>※単位数は保育内容演習Ⅱ、音楽・図画工作・体育を合わせて2単位とする。</p> <p>授業目標</p> <p>乳幼児の表現に関する行為には、表情、身振り、会話、しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現、音楽的表現、造形的表現、総合表現等まで、生活経験と心の動きにより発達に応じてさまざまなものがある。乳幼児の発達をとらえる一視点としての、豊かな感性と創造性に深く関わる保育内容領域「表現」について学習する基礎講座である。</p> <p>精選された基本的な演習を通して、保育者としての感性を磨き表現能力を養いつつ、幼児の表現の特性を学ぶ。表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、表現を育てるとはどういうことなのかを学び、また年間を通してどのように計画や目標を設定するかなど、乳幼児のよりよき環境や経験の中での保育者の役割を考えていく。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 幼児の遊び、領域「表現」の目標と内容 3 幼児体育の指導内容 基本的な動き 4 子どもの発達 発達による動きの違い 5 子どものあそび 6 運動のとらえ方 7 運動指導の基本的な考え方・心構え 8 運動指導時のコミュニケーションスキル わかりやすい指導の仕方 9 体力と運動スキル 10 保育のなかの体育あそび 11 保育あそびの長期計画・短期計画 12 親と子のふれあい運動 13 親子体操 14 運動会 15 まとめ 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	幼児体育 基礎理論と指導補方法 (樹村房)							
準 備 学 習 内 容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	児 童 文 化	担 当 教 員	山 口 由 起 子	開 講 期 ・ 年 次	前 期	選 択 科 目	単 位	1
					3 年 次			
<p>授業目標</p> <p>児童文化という教科は、とても抽象的な名前は何を学ぶのか分かりにくいでしょうね。昔から今まで続いている子どもの造形的・言語的・体育的遊びと言えば少しイメージできますか？ 具体的にいえば絵本やお話、紙芝居そして人形劇、音楽等々そして子ども自身が作り出す造形作品、詩をも含まれます。</p> <p>文化というのは、世代を超えて伝わってきているものですが、ただ受け身的なものではなく、学習によって世代から世代へ（伝達）されるものであって、作り替えることができるものであると言えます。授業内容は、子どもの成長・発達をとらえながら、健康な情操を育てる、子どもの文化と一緒に学んでいこうというものです。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童文化とは（児童文化と言われるものにはどのようなものがあるか） 2 こどもにとっての遊び 3 子どもの遊びの変化 4 子どもの遊びの変化 5 子どもの遊びの変化 6 保育における児童文化 7 保育における児童文化 8 保育における児童文化 9 児童文化財の保育への展開 10 児童文化財の保育への展開 11 児童文化財の保育への展開 12 児童文化財の保育への展開 13 児童文化財の保育への展開 14 児童文化財の保育への展開 15 児童文化財の保育への展開 <p style="margin-left: 200px;"> 保育の歴史と児童文化・児童文化財 家庭や集団保育における児童文化・児童文化財の活用 子どもの発達と児童文化、児童文化財 おはなし・絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・ エプロンシアター・人形遊び・劇遊び・玩具遊具・伝承遊び </p>								
単 位 認 定 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	演習 児童文化 保育内容としての実践と展開 （萌文書林）							
参 考 書	児童文化がひらく豊かな保育実践 （保育出版社）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育の表現技術Ⅲ (音 楽) (演習)	担 当 教 員	坂本 千鶴子 荒子 夕香	開 講 期 ・ 年 次	後 期	必 修 科 目	単 位	2
					3 年次			
<p>授業目標</p> <p>歌唱については、2年次に弾き歌いで習得した曲を復習する。また、実践を考えての音楽理論を学習する。音楽理論としては、主に調について（含 和音・コードネーム）中心に学び、ハ長調への移調を実際に演奏しながら学習する。</p> <p>表現技術に必要なリズムを指導者としての能力を習得する。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 リズム譜の作成</p> <p>(1) 3歳児から使えるリズム譜の作成</p> <p>(2) こどもが知っている歌をリズム譜にする</p> <p>(3) 複雑なリズムや変位記号の多い曲は避ける</p> <p>2 リズム譜の応用</p> <p>(1) 3歳児はリズム楽器（カスタネット、タンバリンなど）に使用。</p> <p>(2) 4歳児は有音階楽器（木琴、ハーモニカ）で基準は黒鍵無し。</p> <p>(3) 5歳児は鍵盤ハーモニカ、他 楽器全般に使用。</p> <p>3 リズム譜の指導</p> <p>(1) こども自身が音符の長さやリズムを理解する。</p> <p>(2) こども自身でできた事の確認が目に見える使い方をする。</p> <p>(3) こどもが自信に繋がる使い方をする。</p> <p>4 リズム譜の継続活用</p> <p>(1) 実践保育時間内での継続活用が保育者の重要課題である。</p> <p>(2) 1週間に1度、数分前後の時間を継続することの重要性を理解する。</p> <p>学校（音楽室）を開放しておりますので、随時使用できます。</p> <p>また、実技に不安がある方は個別指導を行います。</p>								
単位認定の方法及び基準・時間数	印刷教材、DVD教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
教 科 書	指導者によるオリジナルDVD教材（指導要点・模範演奏など）							
参 考 書								
準備学習内容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。							

授 業	保育の表現技術Ⅳ	担 当	吉永 有佳	開講期	前 期	選 択	単	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	---	---

科目名	(演習) 体育・図画工作 (演習)	教員	井上 眞澄	・年次	3 年次	科目	位			
<p>授業目標</p> <p>保育の表現技術Ⅱで習得した技能や知識を発展させ、技能の習熟を図る。</p> <p>(体育) 幼児は遊びを通して、さまざまな運動体験を積み重ねながら、心身ともに発育、発達をする。そのため自発的活動としての遊びは、幼児期の重要である。運動あそびの実践については1、2年次に学習した教材や指導法をもとに指導計画の立案、実践、評価を一つのプロセスとして、幼児の体育指導及び補助の仕方について学習する。</p> <p>(図画工作) 造形表現の基本的な事柄を確認しつつ補う。あわせて、応用的、総合的な造形表現に取り組み、表現する喜びを味わって、保育の実践的展開を支える基礎技術の充実を図る。実技演習の内容は、保育実践の場での可能性を考慮して、いろいろな製作体験を行う。劇遊びなど幼児の総合表現にも関連して、その理解を深める。</p> <p>授業内容の計画</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> (体育) 1 ガイダンス 2 指導計画立案及び準備1 3 指導計画立案及び準備2 4 指導計画立案及び準備3 5 指導計画立案及び準備4 6 ボールを使った遊びの指導 7 器具を使わない体育遊びの指導 8 マットを使った遊びの指導 9 跳び箱・平均台を使った遊びの指導 10 縄を使った遊びの指導 11 レクリエーションとは 12 固定遊具を使ったあそび 13 サーキットあそび(室内) 14 サーキットあそび(戸外) 15 まとめ </td> <td style="vertical-align: top;"> (図画工作) 1 ガイダンス 2 幼児のためのプレゼントカード① 3 幼児のためのプレゼントカード② 4～6 フォトコラージュ①②③ 7 デカルコマニーを使った立体作品① 8 デカルコマニーを使った立体作品② 9 デカルコマニーを使った立体作品③ 10 クイリングの小さな顔 11 総合表現(人形劇) アイデアスケッチ 12 総合表現(人形劇) 人形作り① 13 総合表現(人形劇) 人形作り② 14～15 総合表現(人形劇) </td> </tr> </table>									(体育) 1 ガイダンス 2 指導計画立案及び準備1 3 指導計画立案及び準備2 4 指導計画立案及び準備3 5 指導計画立案及び準備4 6 ボールを使った遊びの指導 7 器具を使わない体育遊びの指導 8 マットを使った遊びの指導 9 跳び箱・平均台を使った遊びの指導 10 縄を使った遊びの指導 11 レクリエーションとは 12 固定遊具を使ったあそび 13 サーキットあそび(室内) 14 サーキットあそび(戸外) 15 まとめ	(図画工作) 1 ガイダンス 2 幼児のためのプレゼントカード① 3 幼児のためのプレゼントカード② 4～6 フォトコラージュ①②③ 7 デカルコマニーを使った立体作品① 8 デカルコマニーを使った立体作品② 9 デカルコマニーを使った立体作品③ 10 クイリングの小さな顔 11 総合表現(人形劇) アイデアスケッチ 12 総合表現(人形劇) 人形作り① 13 総合表現(人形劇) 人形作り② 14～15 総合表現(人形劇)
(体育) 1 ガイダンス 2 指導計画立案及び準備1 3 指導計画立案及び準備2 4 指導計画立案及び準備3 5 指導計画立案及び準備4 6 ボールを使った遊びの指導 7 器具を使わない体育遊びの指導 8 マットを使った遊びの指導 9 跳び箱・平均台を使った遊びの指導 10 縄を使った遊びの指導 11 レクリエーションとは 12 固定遊具を使ったあそび 13 サーキットあそび(室内) 14 サーキットあそび(戸外) 15 まとめ	(図画工作) 1 ガイダンス 2 幼児のためのプレゼントカード① 3 幼児のためのプレゼントカード② 4～6 フォトコラージュ①②③ 7 デカルコマニーを使った立体作品① 8 デカルコマニーを使った立体作品② 9 デカルコマニーを使った立体作品③ 10 クイリングの小さな顔 11 総合表現(人形劇) アイデアスケッチ 12 総合表現(人形劇) 人形作り① 13 総合表現(人形劇) 人形作り② 14～15 総合表現(人形劇)									
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート1 [100%] レポート2 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。									
教科書	幼児体育 基礎理論と指導の方法 (樹村房) (体育対象) 担当者より資料を配布する。(図画工作対象)									
参考書										
準備学習内容	教科書を読み、事前に予習しておくこと。									

授 業 科 目 名	保育所実習Ⅱ (実習)	担 当 教 員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 安田 賀津子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開 講 期 ・ 年 次	通 年 3 年次	選 択 必 修 科 目	単 位	2
実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6 保育士としての自己の課題を明確化する。 実習内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士業務、職業倫理 6 自己の課題の明確化 								
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数	実習期間 10日間かつ80時間 実習園及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
実 習 先 で の 学 習 に つ い て	実習園に訪問してオリエンテーションを受ける。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑳ 保育実習 (中央法規出版)							
参 考 書	よくわかる保育所実習 第5版 (創成社) 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』 (一藝社) 実習に役立つ保育技術 (創成社)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅱ (演習)	担 当 教 員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 安田 賀津子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開講期 ・年次	通 年 3 年次	選 択 必 修 科 目	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践 3 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4 保育士の専門性と職業倫理 5 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間 45 時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート[100%] 事前課題レポートを提出日までに必提出 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑳ 保育実習（中央法規出版）							
参 考 書	よくわかる保育所実習 第5版（創成社） 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』（一藝社） 実習に役立つ保育技術（創成社） 保育指導案大百科事典（一藝社） 福祉施設実習ハンドブックー保育士養成課程（みらい）							
準備学習内容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	施設実習Ⅱ (実習)	担当 教員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開講期 ・年次	通年 3年次	選択 必修 科目	単 位	2
<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設（保育所以外）、の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>実習内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	実習期間 10日間かつ80時間 実習園及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。							
実 習 先 での 学 習 について	実習施設に訪問してオリエンテーションを受ける。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑳ 保育実習（中央法規出版）							
参 考 書	新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習（みらい） 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』（一藝社） 福祉施設実習ハンドブック（みらい）							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅲ (施設実習) (演習)	担当 教員	小保方 敬子 岡林 沙智保 渡部 准子 小林 紗矢香 上田 恵理子	開講期 ・年次	通 年 3 年次	選択 必修 科目	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの状態に応じた適切な関わり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 3 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4 保育士の専門性と職業倫理 5 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 								
単位認定の方法 及び基準・時間数	印刷教材による自宅学習時間 45 時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート[100%] 事前課題レポートを提出日までに必提出 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。							
教 科 書	基本保育シリーズ⑩ 保育実習 (中央法規出版)							
参 考 書	新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習 (みらい) 幼稚園・保育所・施設実習完全対応『実習日誌の書き方』 (一藝社) 福祉施設実習ハンドブック (みらい)							
準 備 学 習 内 容	教科書や参考書で事前に予習しておくこと。							